

令和3年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立和霊小学校

1 自己評価書

教育目標 豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く和霊の子の育成							
基本方針 和霊教育の歴史と伝統を受け継ぎ、地域に開かれた特色ある教育を推進し、社会の変化に対応できる確かな学力を身に付け、心身ともに健やかで、主体性と実践力と郷土愛を身に付けた児童の育成に努める。							
本年度重点目標 ○ 知的好奇心を高める学びの場や地域での多様な体験を通して、主体的に学び、社会に対応できる確かな学力を身に付けた児童を育てる。 ○ 全教育活動の中で、生命尊重や思いやりの心、郷土を愛する心を育てる。 ○ 基本的な生活習慣の定着と自分の命は自分で守ることのできる態度を育てる。							
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価		
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A	
	②	授業改善	自ら学ぼうとする意欲を高めるために発問を工夫し、主体的な学びの実現に向けた授業改善に努めた。(受け身の授業からの脱却)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B	
			一人1台端末(iPad)の効果的な活用を通して、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B B	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDに関連する学習	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A B	B	
	<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 放課後補充学習では、児童の個々の課題のために補充学習支援員を含め、多くの担当の先生方に関わっていたが、成果があった。 ○ iPadを含めたICT機器の積極的活用ができた。ICT支援員に活用方法など相談できたことがよかった。 ○ 家庭学習や読書活動については、前期よりもよい評価であった。タブレットを活用した読み聞かせや読書バトルなど、少しずつであるが、読書の楽しさを味わえる取組を行えたことがよかった。 ● 生徒指導対応で自分の思うような授業展開ができなかった。授業改善については、まず落ち着いて授業に取り組める環境を作り出すことが大事である。 ● ふるさと学習に関する項目が、前期・後期を通じて評価が低く、対応を具体的に考えていく必要がある。 						
	<p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的にiPadを活用していくという意識は高まってきている。教職員の技術向上が求められるが、技能面のスキルアップのための研修の機会があるとよい。 ○ iPadの有効活用の指導を充実させるために、教職員間での情報交換の機会があるとよい。 ○ ふるさと学習への取組を考えていく必要がある。総合的な学習の時間(各学年)の内容について検討が必要。その内容の中に、ふるさと学習及びESDに関連するものなど入れて行ったかどうか。ふるさと学習については、学校運営協議会の議題にも入れて、地域と共に考えていくことが大事である。 						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C A A	B
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A B	A
				学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	A A B	A

③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	B	
			・保護者アンケート	A	
④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・児童生徒アンケート	B	B
		自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・児童生徒アンケート	B	B
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 不登校対応やいじめ防止対応など、チームで素早い対応を心掛けており、教頭や養護教諭にも入っていた保護者との懇談の場を設けるなど、一人で抱え込むことのないよう相談し合える協力体制が整ってきている。 ○ 挨拶や返事、言葉遣いなど個人差が大きい、正しい言葉を伝えたり言い直しをさせたりしながら地道に指導を続けたい。 ○ 校内で積極的に児童を声を掛け、善行を賞賛し自己肯定感が高まるように意識して努めた。 ● きまりや規則を守れない児童に対して、どのような指導が効果があるのか考えていきたい。規範意識の向上を目指して、学校と家庭が協力して取り組んでいく必要がある。 ● 不登校児童が増えていることや自己肯定感の低さから荒れている児童が目立つなど児童が抱える問題に対し、どのように対応していけばよいのか悩んでしまう。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員間で児童に関する情報共有をしっかりと行い、学級担任の負担が減るように協力体制を更に整えていきたい。 ○ 家庭の事情も理解しつつ、伝えるべきことはしっかりと伝え、協力を得られるようにして行く必要がある。 ○ 児童ができそうなことや少し頑張ったら達成できそうなことを頼んで行かせ、できたらしっかりと褒めることを積み重ねていく。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	B
	②	働きやすい環境づくり 業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート ・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実 管理職や学年主任、教科主任、生徒指導主事等に対し、必要に応じて報告、連絡、相談を確実にし、問題を一人で抱え込まず組織で対応した。	・教師アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員一人一人が、時間外勤務で月80時間を超えないように意識して取り組んでいる。 ○ スクールサポートスタッフの協力により、削減された時間を上手に活用できている。 ● どんな頑張っても80時間を超えてしまい、あきらめてしまっている職員も見受けられる。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務改善に向けて、自校の課題をしっかりと洗い出し、具体的な取組が必要である。 ○ 今後も、ある特定の者に負担がないように、チームとして協力し合ってやっていく。 ○ 優先順位を決め、どうしてもやらなくてはならないことを確実にやっていくことが大事か。 ○ SSWや生徒指導主幹教諭などの存在が必要ではないか。フリーで動ける立場の方がいてくださると助かる。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A	A
	②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A	A
	③	来校・相談体制 保護者や地域の方々に来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A	A
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校運営協議会の皆さんが大変協力的で、頼りにしている。学校運営協議会の場でも建設的な意見が出る。 ○ 地域コーディネーターを中心に、学校運営協議会としての取組がしっかりと定着してきている。 ○ ホームページで積極的に情報発信が行えているので、今後も更に発信していく。 ○ こまめにホームページへアップしているため、職員が見ても各学年の取組や活動が分かってよい。 ● 突然の訪問や電話での相談事例が多い。それだけ学校に対する期待等があると思われる。しかし、相談内容の中には、学校では、ちょっと難しいと思われる要求かと感じるものも年々増えているように思う。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者の方から、HPの更新が少なくなっているという意見や学年によって差が見られるという意見があり、できる限り、保護者のニーズにも答えながら情報を発信していく。 ○ 保護者の方が、相談しやすい雰囲気づくりに努めているので、今後も継続していきたい。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満